

仏教とお寺をやさしく解説

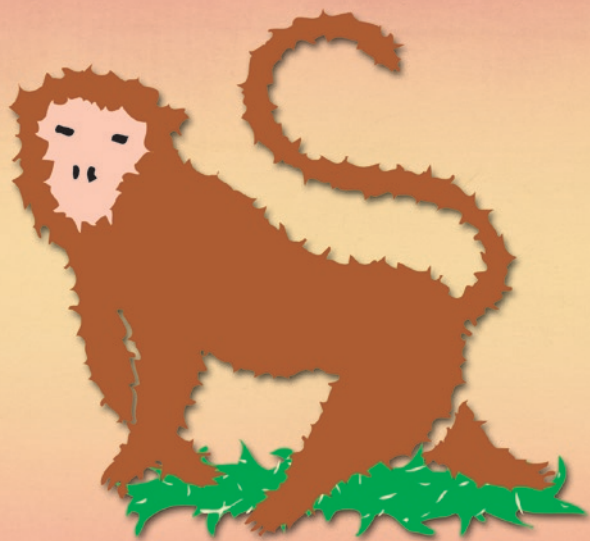
さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2016年1月
第23号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部



「お正月の意味は」／丹羽義昭住職インタビュー

シリーズ浄土宗／浄土宗のルーツを辿るⅡ

実践教室／灯明の意味

・七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会) ご案内

・厄払い節分会法要のご案内

「お正月で連想するものは？」というと、鏡餅、初詣、お年玉が上位にくるそうです。お正月には、有名寺社に初詣や、子どもたちにとってはお年玉が大きな楽しみですね。

お正月の本当の意味とはどんなものでしょう。



西願寺本堂



丹羽住職

問 ご住職は、お正月をどのようにとらえますか？また、お寺のお正月の飾りつけというのはどのようなものでしょうか？

住職 「ハレ」と「ケ」（晴（ハレ）と麩（ケ））ということなのだと思います。「ハレ」は折り目や節目を指し儀礼や祀り、年中行事などの非日常で、「ケ」は普段の生活を表します。節目、節目で晴れをもつてきて、リセットする意味があったのでしょうか。そして、正月は、年が明けるといふ節目の最たるものと考えられますよね。

お正月は、もともとは自然信仰などからきているのではないのでしょうか。農耕民族であった私たちの祖先が、その年の豊穡を司る歳神様をお迎えすることからきているようですから、お寺での正月飾りでは、鏡餅をお供えしたりはしますが、仏教的に特別な飾りつけをすることはしませんね。

問 浄土宗では、正月の初め、修正会という法会があるそうですがどのようなものですか？

住職 社会の平和と人々の幸せを祈って行われるものです。「修正」という言葉には、新年に向けての誓いと祈りの意味もあるのではないかな。西願寺では、お寺の家族だけが年が明けた夜中の0時と朝七時にお勤めをしています。

問 西願寺に初詣に来られる方はいらっしゃいます

か？

住職 初詣という形でうちのお寺に来られる方は少ないですね。やはり皆さん有名な大寺や神社に行かれるのでしょうか（笑）。勿論それも良いのですが、やはり、その前に我が家のお仏壇にお詣りすることも忘れて欲しくありません。

問 まずは、ご本尊の阿弥陀さまやご先祖様に新年のご挨拶ということですね？

住職 そうですね。仏壇の前で手を合わせるのは、何かを祈願というよりは、感謝の気持ちを合掌というかたちであらわすことです。今、私たちがこうしてここに居るのは、何代にもわたる命の火を繋いできてくれたご先祖さまのお陰です。新年の初めに改めて、阿弥陀さまやご先祖さまに無事に新しい年を迎えられたことを感謝し家族みんなでお仏壇に手を合わせて頂きたいと思います。

問 初詣の後にお墓にお参りされる方もいらっしゃるそうですね。

住職 はい。

西願寺や彩の都メモリアルパークでも元旦からお参りにみえる方もいらっしゃる

います。「明けましておめでとうございます。家族みな無事で正月を迎えました」と墓前に報告すると、新春らしく晴れやかな気持ちになるのではないのでしょうか。

問 新春と言えば、西願寺での七草粥ウォーキングも新春らしい行事ですよね？ 参加される方も増えてきたのではないですか？

住職 徐々に広まってきているようです。決められたポイントでスタンプをもらってこちらのゴールで七草粥を食べる、誰でも気軽に参加できる行事です。楽しんで頂けるようです。参加された方に、記念でその年の干支の根付を差し上げているんです。



問 干支だと十二支全てを揃えたくな

ってしまいますね（笑）。最後に、平成二十八年はご住職にとってどのような年になることをお望みでしょうか？

住職 自然や経済も目まぐるしく変わるのが今で、二十八年がどんな年になるかは分らないけれど、世の中のみんなが穏やかな気持ちで過ごせる年にしたいですね。

問 平成二十七年も明るい話題、暗いニュース、いろいろな事がありましたね。新年は気持ちを新たに清々しくスタートを切りたいと思います。本日はありがとうございます。新年もよろしく願います。



浄土宗のルーツを辿るⅡ 「中国での浄土教」

浄土教を源流としてその念仏の教えを受け継いできた浄土宗。浄土宗の根本經典の一つである『無量寿経』は紀元前二世紀にインドで成立しました。

シルクロードを経由して中国へ伝えられひろまっていく大乘仏教。僧たちは經典を求め命がけで天竺（インド）への旅に出ていきました。



インドから中国へ

最初に中国で翻訳された浄土教の經典は、『般舟三昧経』はんしゅうさんまいきやうで阿弥陀仏が登場する最古の經典と言われています。

中国で最初に浄土教を説いたのは慧遠えおんという僧で『般舟三昧経』に則って念仏による西方往生を説きました。四世紀になり、慧遠の白蓮社という念仏結社の結成をもって中国浄土教のはじまりとされますが、常行三昧と呼ばれる一般民衆にはむずかしいとされた観想念仏（精神を統一し阿弥陀仏を瞑想する念仏）の修行法ゆえに民衆のあいだにひろまることはありませんでした。

日本で尊高される中国浄土教の五人の祖師「浄土五祖」

阿弥陀仏の名をただ一心にとなえることによって救われるとする〈称名念仏〉を広めたのは北魏の玄奘寺の僧曇鸞どんらんでした。曇鸞は、インドの僧世親せじんの『浄土論』を解説した『往生論註』を著す一方、『無量寿経』『観無量寿経』などを紹介することにより中国の民衆に称名念仏のすばらしさを説き、中国浄土教の基礎をつくりました。

曇鸞の死後、称名念仏の系譜は道綽どうしやくに続きます。道綽は『安樂集』を著して、仏教を〈聖道門〉と〈浄土門〉に分け、曇鸞の教えをさらに論理づけることで浄土門による救いを説きました。浄土門とは、阿弥陀仏の本願を信じ、一心に念仏をとなえて極楽浄土に往生し、そこで悟りを得ようとする教えと実践のことです。

その後、道綽に続くのが、道綽の弟子である善導ぜんどうです。善導は、浄土教の教義体系をまとめ、また、『観無量寿経疏（観経疏）』や『往来礼賛偈』ほか多数の書を著し、中国浄土教を大成させます。

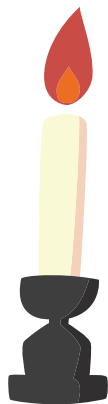
法然上人は万民救済の道求め苦悩しているときに、善導の『観経疏』により忽然と悟ることができたのです。

善導によって完成された中国浄土教は、善導の弟子の懐感えかん、さらに少康しょうかうに引き継がれ、唐の時代に隆盛をみることになったのです。

法然上人は、曇鸞からはじまるこの五人の系譜を中国浄土教の正当とし、浄土五祖と呼んだのです。

「灯明の意味」

お仏壇をお参りするときに欠かせない三具足（蠟燭立、香炉、華瓶）は、お仏壇にあることが当たり前となっていてその意味について深く考えることは少ないかもしれませんが。



灯明にはどんな意味が？

お灯明は、阿弥陀さまの智慧と慈悲の心を表しています。ろうソクの火には闇をなくし、周囲をはっきりと見えるようにする働きがあるのです。

周囲を明るく照らすその光は永く深い私たちの心の闇をも一瞬にして破る智慧の光明を意味しています。

また、そのぬくもりで固く閉ざした心を解きほぐしてくださる阿弥陀さまの慈悲の心を表していると言われています。

ろうソクに火を灯す

まずろうソクに火を点し、次に線香をろうソクの火で点火し、香炉に立て

ます。直接マッチなどで線香に火をつけることもあるかもしれませんが、正しくは、ろうソクから線香に火をつけます。

線香の本数は三本あるいは一本で、三本は仏・法・僧の三宝への供養をあらわすと言われています。

香炉は灰が散らかっていることのないようにいつも掃除を心がけましょう。

ろうソクや線香の火を消すときは、口で吹き消すのではなく、手などであおいで消すようにします。人間の口は、とかく悪業を積みやすく、けがれやすいものなので、仏に供えた火を消すには向かないと言われています。神聖な仏壇の前で、息をふきかけて消すことは作法とされているのです。

ろうソク、線香など息を吹きかけて消すことのないようにしましょう。

花をお供える

お仏壇の花瓶に花を生けるといふことは、供華（きっけ）という盛華や散華と同じように、仏さまにお花をお供えすることです。仏さまを敬う心、感謝の気持ちからお供えします。また、仏前にお供えされた仏華は仏さまのお慈悲の心をあらわすともいわれています。

お仏壇の花瓶には、四季折々のお花を生け枯れてしまったお花はすみやかに片付けるようにしたいですね。

暮らしの中の 仏教語

「相続」【そうぞく】

相続と言う言葉を聞くと思い浮かぶのは相続税のこと？最近では「遺産相続」などとTVドラマのタイトルにも…。

相続とは、法律で、人が死亡した場合に、その者と一定の親族関係にある者が財産上の権利・義務を承継することや、家督・地位などを受け継ぐことをいいますが、仏教では因果（原因と結果）が連続して途切れないことを表す言葉として使われます。法然上人のお言葉に「一食（いちじき）のあいだに、三度ばかりおいしいでんはよき相続にて候」というお言葉があります。ここでの相続とは「南無阿弥陀仏」とお念仏を絶やすことなく称えること。お念仏の相続ということです。仏教の「相続」は永遠に続くのです。





遊馬・柳島 七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会)のご案内

新年開運七草粥の会も今年で3年目を迎えました。どなたでも参加できる楽しい行事です。お気軽にご参加ください。7カ所の神社寺院をめぐり御朱印をいただきます。

ゴールの西願寺では記念品が手渡され、開運七草粥が振る舞われます。

日 時 平成28年1月7日(木)

10:00から12:00の時間内で巡っていただきます

参加費 100円(※保険料として)



Q & A



2016年は閏年(うるうどし)ですが、閏年にお墓を建てたり、仏壇を買うのは良くないと言われました。なぜですか？



それは、江戸時代のある習慣からきています。現在、私たちは太陽暦により、4年に1度の閏年は閏日が挿入され1年を366日としています。しかし、江戸時代は旧暦(太陰暦)で1年を計り閏年は1ヵ月多い13ヵ月としていました。その頃、武士などの給金はほとんど年払いで閏年には同じ給金でいつもより一月(ひとつき)多い13ヵ月の生活をしなければなりません。その為、藩主は家臣の出費を抑えさせるため、閏年は仏壇などの新調を控えるようにさせたそうです。つまり、閏年にお墓の建立や、仏壇の新調が良くないと言われているのは、江戸時代の節約の習慣からきているものなのです。本来の意味を知ると迷信に惑わされず過ごすことができますね。

厄払い節分会法要 (豆まき)のご案内

西願寺では、節分会法要を開催いたします。当日は、厄払い法要の後、関取による豆まきが行われます。

平成28年度に前厄、本厄、後厄にあたる善男善女の方は是非お申込みご参加ください。

冥加料 10,000円

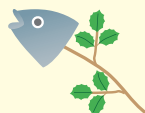
(祈祷料、会食代)

日時 平成28年2月3日(水)

10:00 受付

10:30 節分会
法要

11:30 豆まき



※尚、豆まきのみのご参加は、浄財としてお賽銭(灯明料)をお願いいたします。

西願寺 平成27年度東日本大震災復興支援十三夜お月見チャリティーコンサート開催報告

去る、10月23日、西願寺本堂にて恒例となったお月見チャリティーコンサートが開催されました。今回はオペラ歌手の並木隆博さん、衣笠千恵子さん、ピアニストの杉山潤子さんによる秋の夜のコンサートでした。



掲 示 板

彩の都メモリアルパーク 管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆年末年始休業日◆

平成27年12月30日(水)～

平成28年1月3日(日)

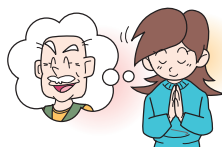
年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。

尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。

平成28年 年回表

年ごとの命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行く法要が年回(年忌)法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めします

1周忌	平成27年逝去	37回忌	昭和55年逝去
3回忌	平成26年逝去	50回忌	昭和42年逝去
7回忌	平成22年逝去	100回忌	大正6年逝去
13回忌	平成16年逝去		
17回忌	平成12年逝去		
23回忌	平成6年逝去		
27回忌	平成2年逝去		
33回忌	昭和59年逝去		



各行事の参加申し込み・お問合せは
西願寺までご連絡ください

TEL. 048-925-1723
FAX. 048-925-1789

西願寺 平成28年 年間行事案内

- ※1月 1日(金) 修正会(新年をむかえての法要=おつとめ)
- ◎1月 7日(木) 七福神めぐりウォーキング(新年開運七草粥の会)
- ◎2月 3日(水) 厄払い節分会法要
- ※2月15日(月) 涅槃会(お釈迦さまの命日)
- ◎3月18日(金) 春の彼岸会
～24日(木)
- ※4月 8日(金) 灌仏会(花まつり)
- ◎7月13日(水) お盆会(東京棚経)
～16日(土)
- ◎8月 7日(日) 合同新盆供養
- ◎8月13日(土) 旧盆会
～16日(火) (地元棚経)
- ◎8月18日(木) 大施餓鬼会
- ◎9月19日(月) 秋の彼岸会
～25日(日)
- ◎10月14日(金) 第7回十三夜お月見コンサート
- ※11月23日(水) 十夜会(念仏をとなくて善根をつむ法要=おつとめ)
- ※12月 8日(木) 成道会(お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(日) 仏名会(念仏をとなくて一年を反省する法要=おつとめ)



毎月25日は念仏会を開いております

◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。

※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要=おつとめです。

■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんか」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一 カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03(32695)1302 Mail: info@io.co.net

■次号予告

次号は平成二十八年二月発行予定の「春のお彼岸号」です。



◆編集後記◆

今年、スポーツの世界では日本人の活躍が目を引きました。そして、政治の世界は相変わらず混乱しているようですね。皆さんにとって、平成27年はどのような年でしたか？毎年、年末になると「一年を振り返って」というお話しを聞く機会が多くなります。目標を達成できたこと、出来なかったこと様々だと思いますが、ご住職がインタビューの際に、お正月はリセットの意味があったのでは...とお話されていました。新年に誓いをたてて1年を送ってきたけれども、人は日常生活の中でまた煩惱にまみれてしまうもの、お正月にまた気持ちを立て直して新しい1年をスタートさせることだと伺い、これまでをなかった事にするという意味ではなく、去年までを踏まえ、そして一つ階段を上がり成長し新たに始まりとする事なのだと思います。

さて、創刊から7年目の「さんか」ですが、まだまだ成長中！まっさらな気持ちで平成28年のスタートをきって「もつと充実の紙面作り」を心がけます。新年もどうぞ宜しくお願い致します。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部